

小情報共有 3枚 (非管理メモ)

官邸班, NISA班 ← プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時: 平成23年7月20日 (水) 11:00~11:20

場所: 東京電力本館3階大会議室

先方: 記者約30名 (カメラ5台)

当方: 原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (7月20日6時現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設 サブドレン水核種分析結果 (7月20日)

より配付資料に関して説明。

より仮払いについて以下の通り説明。

- ・ 7月16日の会見において、中小企業社への仮払いについては、「紛争審査会が策定する指針がはっきりしていなかったために医療法人、社会福祉法人、学校法人が対象となっていなかった」と説明させていただいたが、この仮払いについては当社の判断で行うもので、指針が不明確であったためということではないことを説明。
- ・ なお、これらの法人に対する仮払いに関しては、7月中の受付を目指して準備を進めており、詳細が確定した際には改めてご報告させていただく。

質疑:

Q. 雨の影響によりトレンチの水位が上昇する、あるいは原子炉への注水量を減少させるといった対策をとっているが、これらによる影響は。

A. 原子炉の注水量については、昨日保有水量を減らすため、1, 2号機に関しては当初4m³/hで調整していたが、3.8m³/hに再調整しており、合計で0.4m³低下している。雨による影響としては、2, 3号機についてはプロセス主建屋への移送を実施しているものの、雨水進入により水位の低下量としては減少傾向にある。2号機についてはトレンチの水位は4mm下降、タービン建屋水位は2mm程度の下降、3号機のトレンチの水位は2mm上昇、3, 4号機のタービン建屋の水位は2mm上昇している。1号機原子炉建屋については120mm上昇となっており、こういった部分に雨の影響がでていている。雨水の浸入に関しては過去に経験があるので、水処理装置およびプロセス主建屋への移送を継続しながら対応していく。

Q. 台風の影響をどの程度懸念しているのか。

A. タービン建屋についてはO.P. 4,000mmに対して40cm程度の余裕がある状況であり、建屋外に漏れいするような危機的な状況ではないと考えている。現在、台風は紀伊半島付近にあるが、引き続き監視していく。

Q. 水処理装置は昨日ベッセルを交換し定格流量に戻ったとのことだが、現在の流量は、また、流量低下の原因究明の調査は進んだか。

A. 現在は $37\text{m}^3/\text{h}$ で安定運転している。なお、流量低下の対策はまだ検討できていない。

Q. 1号機圧力容器下部温度が 100 度を下回っているが、この点に関する評価は。

A. 1号機についてはこれまで温度は安定しており低下等はなかったが、ここ4、5日は温度が低下傾向にある。冷温停止に向け冷えつつあると思うが、冷温停止を実現できた訳ではないので、引き続きパラメータ監視を実施していく。

Q. 敷地内の線量が $1\text{mSv}/\text{年}$ を達成していくとのことだが、これはこれまで公表されているモニタリングポストのデータをみれば確認できるというものではない、という理解でよいか。

A. 敷地境界において原子炉建屋より放出される放射能により $1\text{mSv}/\text{年}$ を達成していくというものであり、これまで公表しているモニタリングポストの値とは異なる。現在モニタリングポスト周辺では降り積もったセシウム等からの放射線および風による巻き上げによって、値としては $1\text{mSv}/\text{年}$ よりも高い状況が続いている。

Q. モニタリングポストのデータは、風による巻き上げの影響も含めた値になっているのか。

A. 昨日公表した敷地周辺での最大被ばく線量 $1.7\text{mSv}/\text{年}$ という数値は、現在の福島第一原子力発電所西門で観測されているダストが原子炉から全量飛散していると仮定して評価したものである。これまで計測している実測値については不明であるが、おそらく地面に降り積もっているセシウムがダストとして舞い上がっているのが大部分を占めているものと考えている。昨日公表した中で、風向きによりダスト濃度はあまり変化しないという評価をお示しさせていただいているが、原子炉から直接飛散してきているものよりは、既にそこにあるセシウムがダストの形で舞い上がっているものが大部分であると判断している。今後はダスト分析と建屋から直接計測することで、どれだけの量が放出されているかを見極めたい。

Q. 1号機圧力容器下部温度が今回 100°C を下回ったが、これは計器の校正が必要な数値と理解しているが、温度計の校正を行う時期の見通しは。また、 100°C を下回ったのは今回が初めてか。

A. 測定誤差の範囲内で温度計が計測できているかどうかについては不明であり、現在は温度変化の傾向を見ている段階。ただし、絶対値としてそれほど離れた数値ではないものと考えている。なお、具体的な校正時期の計画はできていないが、冷温停止の判断の際には温度計の評価および十分 100°C を下回っているという結果が必要と考えている。

Q. 1号機圧力容器下部温度が 100°C を下回ったのは今回が初めてか。注水流量を $4\text{m}^3/\text{h}$ に上昇させたことが影響しているのか。

A. 5月連休前や20日頃に注水流量を増加させた時期があり、その際には 100°C を下回っており、今回が初めてではない。

Q. いつ頃までに温度計の校正を実施したいのか。

A. ステップ2の中では校正や評価は必要だと思うが、まだ見通しはたっていない。

Q. 台風の影響で飛来物等により循環注水冷却装置のホース等が破損する可能性もあると思うが、その場合のバックアップ体制は整っているのか。

A. 損傷の可能性はあると思うが、注水ラインとしてはバッファタンクから原子炉へ注水するシステムであるため、バッファタンクまでの約4kmのホースが損傷したとしても注水に影響はないと考えている。なお、ポンプや電源装置が損傷したとしてもバックアップ体制として消防車や電源車が準備されている。

A. 3, 4号機原子炉建屋において、カバー設置以外の雨水対策として実施するものは何かあるのか。

A. がれきの撤去を優先しており、雨水対策としては特にはない。これまで同様、原子炉建屋内に雨水が入ってくる状況である。

Q. 1号機原子炉建屋カバーの設置完了予定は。

A. がれき撤去およびクローラクレーンの走行路の確保を行った後、鉄骨等の搬入を行う予定で、9月末までに完成させる予定。

Q. 台風によりパトロール頻度を増やすことは考えているのか。

A. 毎日1回のパトロールは継続実施していくが、特に回数を増やす予定はない。なお、仮設設備の固縛状況の確認は既に終了している。

以上